

令和2年度「学ぶ力」育成プログラム

学校番号：33007

学校名： 栄 中学校

改訂のポイント

- 生徒の学力向上を目指した、「分かる・できる・楽しい授業」の実践
- 学習習慣の定着化を図る

項目名

項目内容

項目内容の具体

目標

「学ぶ力」の育成に係る目指す子ども像

- ☆意欲的に学習に取り組む生徒
- ☆主体的に学習に取り組む生徒

「学ぶ力」に関する成果や課題

学ぶ意欲

【昨年度の具体的な取組】

- 学習トライアルの実施
- サタデースクール事業（長期休業中の学習会）の実施
- 授業アンケート、学習アンケートの実施

【成果】

⇒「めあてをもって学習する」83.6%（H30～68.5%）、「自分で調べる」82.5%（H30～79.1%）、「勉強していても楽しい、楽しいと思うことがある」78.9%（H30～71.8%）、「分かるまで努力する」82.5%（H30～74.0%）、「学校で好きな授業がある」92.4%（H30～88.0%）

「めあてをもって学習する」、「わかるまで努力する」など、学習に意欲的に取り組む生徒の割合が、昨年度と比較して、15.1%、8.5%、それぞれ上昇した。学習トライアル、サタデースクール事業など、継続した取組で、成果が見られる。

【課題】

新3年生のデータでは、昨年度と比較しすべての項目で数値が向上している。新2年生については「めあてをもって学習する」78.2%、「分かるまで努力する」67.0%と低い数値になっている。学校全体としては新2年生に対して「分かる、できる、楽しい授業」の構築と実践を行い、教科会、授業交流の充実を図る必要がある。

思考力・判断力・表現力等

【昨年度の具体的な取組】

- 発表活動を取り入れた授業作り
- 課題探求的な学習を取り入れた授業作り
- 総合的な学習の時間での発表活動
- 特別活動における話し合い活動
- 授業交流における研修

【成果】

⇒「意見が違ふ人との話し合い」80.7%（H30～70.5%）、「理由を明確にする」84.8%（H30～78.0%）、「話の内容や順序を考える」80.1%（H30～70.9%）、「授業中進んで発言する」39.8%（H30～32.0%）、「終わりまで聞く」95.3%（H30～93.0%）、「自分の考えを見直す」89.4%（H30～87.9%）、「既習事項を使って考える」93.6%（H30～93.1%）

課題設定を意識した授業を各教科で意識して取り組んだことで、話し合い活動に対する意識が高まった。

【課題】

新3年生のデータでは、昨年度と比較しすべての項目で数値が向上している一方で新2年生については、アンケート時点でほぼすべての数値が下回っていた。

今後は、授業や総合的な学習の時間等の中で、発表の機会を増やし、根拠を示させたり、内容や順序を意識させたりするよう指導を重ねていく。

	<p>基礎的・基本的な知識及び技能</p>	<p>【昨年度の具体的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業における復習活動 ○毎日の課題の実施 ○問題データベースの活用 ○教育相談 	<p>【成果】</p> <p>⇒「どのように勉強するのか」68.5% (H30～65.1%)、「勉強で同じ間違いを繰り返さない」90.0% (H30～85.7%)、「新しく習ったことは、繰り返し練習する」65.5% (H30～57.2%)、「計画を立てて勉強している」43.3% (H30～35.9%)</p> <p>各教科での学習方法や家庭学習の習慣化を図るための方策の効果が現れていると考えられる。継続していきたい。</p>	<p>【課題】</p> <p>すべての項目で、数値が上昇している。ただし、「計画を立てて勉強している」に関しては高い数値とはいえないので、50%を目指す。継続して毎日の課題に取り組んだり、問題データベースを有効活用したりし、学習習慣をより定着させていく。</p>
<p>改善策（取組）</p> <p>今年度の具体的な</p>	<p>取組の最重点</p>	<p>【取組の共有】</p> <p>「分かる・できる・楽しい授業」を目指した授業改善に取り組む。 * 課題の提示、交流場面、振り返り → 1時間の授業の中で3つの場面を意識した授業づくり</p>		
	<p>A「子どもが自ら考え、判断し、表現する学習活動」の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○課題探求的な学習など、知識を活用する力を伸ばす工夫をする。 ○主体的・対話的で深い学びの視点から授業の構築を図る。 * 課題の提示、交流場面の設定、振り返りのサイクルを意識した授業の構築。 		
	<p>B「自分への自信をもたせるきめ細かい指導」の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○授業、日常生活、教育相談等を通して、学習習慣の定着を図ることができるようアドバイスを行う。 ○日々の授業だけでなく、長期休業中の学習会等も利用して、生徒一人一人に応じたきめ細かな指導を行う。 ○習熟度別の学習を積極的に取り入れ、個々の生徒に丁寧に対応できるようにする。 ○OT、少人数指導の充実を図る。 ○復習活動（小テスト、定期的、計画的な宿題の提出）を行う。 		
<p>方法</p> <p>検証の</p>	<p>各種調査や子どもの自己評価指標の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研修会（授業交流） ○各教科等の評価規準に基づく学習状況調査結果の活用（日常のテストやノート、観察等） ○全国学力学習状況調査や標準学力検査の分析結果の活用 ○学校評価アンケート（保護者、生徒、教職員）や学習アンケート、授業アンケートの活用 ○札幌市全体の共通指標（子どもの自己評価）の活用 ○問題データベースの活用 ○Q-Uを活用した生徒理解の推進 ○学校評議員会・学校関係者評価等の活用 		